

これからの学級規模のあり方と
教員の適正配置を考えるための一つの視点

～三鷹発：コミュニティ・スクールを基盤とした
小・中一貫教育の実践から～

三鷹市長
清原 慶子

三鷹市

面積：16.50km²

人口：約18万人

世帯：約8万9千

市制施行日：昭和25年11月3日

平成23年度一般会計予算：約650億円

地方交付税の不交付団体

三鷹市の公立学校の教育理念

学校自由選択制ではなくコミュニティスクールを！

- 質の高い教育をどの学校においても保証する
(義務教育9年間に責任をもつ)
- 地域全体で、『共に』子どもの育ちを支える

三鷹市自治基本条例第6章「参加及び協働」第33条
(平成18年)

- 保護者、地域住民等の学校運営への参加を進めることにより地域の力を活かし、創意工夫と特色ある学校づくり
- 学校を核としたコミュニティづくりを推進

三鷹市教育ビジョン (平成18年12月 策定)

0 to 15 義務教育9年間の質の高い教育に責任をもつ

□安心と信頼のある学校

- 幼保・小の連携
- 新しい義務教育学校(小・中一貫教育校)
- 義務教育9年間の教育支援(特別支援教育) 等

□自律した学校

- 学校経営計画
- 学校運営協議会(コミュニティ・スクール)
- 三鷹ネットワーク大学と連携した教員養成と専門講座

□地域と共に創る学校

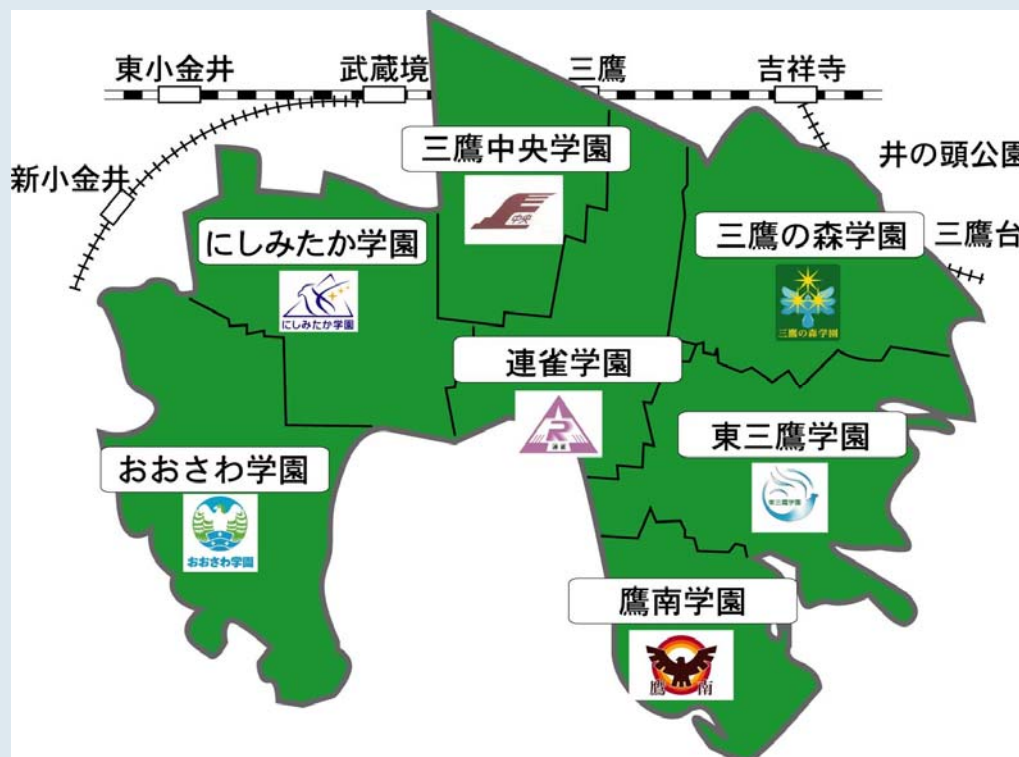
- 学校運営協議会の設置によるコミュニティ・スクール
- コミュニティの核としての学校
- 学校・家庭・地域の当事者意識

□情報共有のためのモニタリングシステム

- 学校評価・学校関係者評価
- 計画・実施・点検・改善システムの確立



三鷹市立小・中一貫教育校 7 学園



小学校
15校

中学校
7校

合計
22校

小学校と中学校の相互交流

小・中学校の教員の
全員に兼務発令

○小学校と中学校の教員が
相互に交流し、適切な児童生徒理解をもとに、相談機能の
充実と丁寧な支援を行う

○児童生徒が活発に交流



2校合同での自然教室(小6)

学園の小学校中学校をつなぐ 小・中一貫コーディネーターの配置 (市独自の予算による非常勤講師)

- ・ 学園開設に向け、各校に小・中一貫コーディネーターの教員を配置
- ・ (開園前2年、後1年間) コーディネーター後補充講師配置

平成17年度 :	6,021	(単位千円)
平成18年度 :	6,326	
平成19年度 :	17,643	
平成20年度 :	34,361	
平成21年度 :	37,935	
平成22年度 :	17,852	



6年間 総計
120,138

相互乗り入れ授業 後補充講師 (市独自の予算による非常勤講師)

後補充補助教員 (市費負担 非常勤講師)

講師配当時数

週10時間×45週×22校+交通費

年間予算 **24,714,000円**

すべての学園が開園した平成21年度以降も
経常的経費として

各校に週10時間分の後補充講師を配置

教育活動支援員 (市独自の予算による 教員免許を保持する支援員の配置)

小1支援員 17名(1学期のみ:23年度)

平成17年度から配置

各小学校の1年生には担任以外に学年に1名を配置

教育活動支援員 2名(23年度)

通常の学級で支援が必要な子どもの状況に応じた
教育活動支援員の配置

年間予算 7,754,000円

<少人数学習集団による指導> (都)指導方法工夫・改善による 教員加配

全小・中学校に都の正規教員(県費負担教職員)

少人数指導 実施のために27名が加配

予算は都が負担

少人数・習熟度別学習の効果

東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」
学習に関する意識調査から

		小4		小5	
		三鷹市	東京都	三鷹市	東京都
算数	算数の問題にはいろいろな解き方があるから	53.1	59.6	61.5	58.8
	コースに分かれた少人数の学習があるから	75.1	46.1	74.5	50.4
	自分で解き方を考え、進める授業が多いから	40.7	43.5	54.9	46.0
		中1		中2	
		三鷹市	東京都	三鷹市	東京都
数学	理解の程度などによるコース別の学習があるから	58.7	12.2	28.7	14.4
	数学の問題にはいろいろな解き方があるから	41.3	35.0	30.0	28.8
	数学の授業での先生の教え方が丁寧だから	35.5	36.5	28.8	30.6

サポート隊の活動

- ・学習活動の援助
- ・環境整備・安全管理

		学習支援	環境支援
専門的		①ゲストティチャー	③施設メンテナー
一般的		②学習アシスタント	④環境サポーター

コミュニティ・スクール委員会 サポート隊 学校支援ボランティア

平成22年度

のべ7,835人が授業等サポート

年間予算 市民の熱意により 0円

学生ボランティア(交通費補助あり)

- ・ 1校あたり年間19日分の配当
- ・ 授業・部活動・放課後活動等サポート
- ・ 交通費補助1日あたり 1,000円

年間予算 340,000円

学生ボランティア(交通費補助なし)

- ・ 意欲ある教員志望者等を中心に支援活動を展開
- ・ 多くは上記の対象者が交通費補助なしでも継続的な支援活動をしている

三鷹市教育支援プラン (三鷹市特別支援教育推進計画)

- ・障がいのある子もない子も 学校・家庭・地域の力を得て次代を担う人として育てていくことを支援
- ・三鷹市では一人ひとりのニーズに応じた支援は「特別」ではないと考え、「特別」支援教育ではなく「教育支援」と呼んでいます

教育支援に関わる人財 (市独自予算による非常勤の職員)

介助員 68,953,000円
固定制教育支援学級 1 学級に 1 名 計 27 人配置

学習指導員 13,638,000円
5名の学習指導員が 22校を巡回して指導

スクールカウンセラー 23,033,000円
都費SC未配置校に8名のSCを1校週2日配置

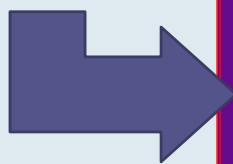
その他を含め年間予算 129,695,000円

コミュニティ・スクールの成果

- ◆ 学校、地域・保護者それぞれが必要とされ、自己実現する存在に
- ◆ できることを惜しみなく力を出し合う

地域の活性化

学校教育の充実



スクール・コミュニティ
の創造

質の高い教員はもちろん必要 そして・・・

- ◆ 学級定数を基準に学級数を考えると…
 - 都市部では教室を増やす施設のゆとりがない場合もあり新校舎建設が必要となる場合もある
 - 教員のみならず施設・設備に補助枠の拡充が課題
 - 過疎地では児童・生徒数が少ない場合、他の地域との交流も含めた教育活動が求められる
 - 定数増とならない学校も多いと想定され、過疎地加配等、別の配慮も必要となる

- ◆ 1年生入学当初は、複数の教員配置が有効
- ◆ きめの細かい指導や学力向上に少人数学級が有効であり、教員数の確保が必要
- ◆ 「教育支援」には教員以外にも、介助員やカウンセラー等の職員の配置が必要
- ◆ 「コミュニティ・スクール」を有効に推進するためには、教員や事務職員等の加配が必要 ←三鷹市の実践から
 - 定数改善は必要であり、大いに賛成だが、地域の実情に応じた柔軟な教員職員等の配置ができる方向性が求められている

- ◆ 教員の量的拡大と教員の資質向上とは同時に求められなければならない
- ◆ 教員の適切な養成、採用、研修がなされなければならない
 - 量の拡大を図るとき、質の高い教員の数を確保するためのしくみづくりが不可欠
- ◆ コミュニティスクールの教育現場にいるおとなとしては、教員だけが必要とされているわけではない
 - 多様な人財が参加できるよう、コーディネートできる教員の養成と加配が求められる